

Sei@Wonderland

ポッセの たびじたく



いわた せい

いけのほとりで カモたちが にづくりを しています。

ミニブタの ポッセは いちわのカモに ききました。

「キミたち どこかへ でかけるの？」

「ぼくらは きたへ たびに できるんだよ」

そういつて カモたちは ばたばたと そらへ とんでいきました。



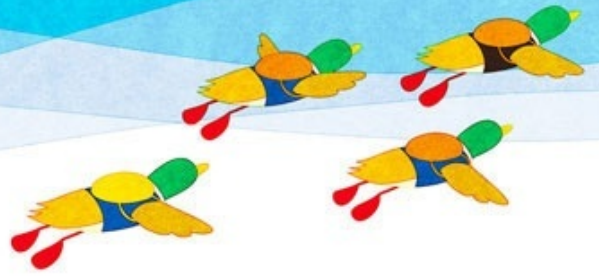
カモを みおくと ともだちの クアーノが やってきました。

「やあ、クアーノ。きみは たびを したことある？」

「ほくも ちょうど でかけるところなんだ」

「いいなあ、ほくも いっしょに いきたいな」

「いいよ。すぐに したくを しておいでよ」



ポッセは うきうきと かえってきました。
すると さっそく したくを はじめました。
どれも これも もっていきたい ものばかり。
「このカバンじゃ ちいさいなあ」
そこで ポッセは カバンを かいに でかけました。



ここは フクロネズミの カバンや です。
ポッセは おおきなカバンが ほしいと たのみました。
すると フクロネズミは あおいカバンを だしました。
「これなら にもつが たっぷり はいりますよ」
ポッセは すぐに きにいりました。



ポッセは またまた したくを はじめました。
だいすきな えほんに、おやつの ドーナッツ。
カサに カメラに かいちゅうでんとう。
めざましどけいに、おおきな まくらまで。
もう カバンのなかは いっぱいです。



そこへ クアーノが やってきました。
「そろそろ よういは できたかい？」
「ちょっと まって。ぼく にもつが おおくって…」
ポッセは クアーノに ききました。
「キミは カバンに なにを いれたの？」



すると クアーノは こたえました。
「ぼくの カバンは からっぽだよ」
「ええ! どうして からっぽのカバンを もっていくの?」
「これから たからもので いっぱいに するんだよ」
ポッセは なんだか わくわく してきました。



ようやく ポッセも したくが できたようです。
カバンには にもつを ひとつだけ いれました。
だいすきな えほん です。
さあ、ふたりの たびの はじまりです。





ふわり ふわりと かぜにのって



ざぶん ざぶんと なみにのって



おおきな おおきな せなかによって



あまく まっかな きのみをとって

きらりと きらめく かけらをあつめて





ポッセには みるもの すべてが たからものでした。
カバンのなかも おもいでで いっぱいです。
ゆうひを みながら クアーノは いいました。
「そろそろ うちに かえろうか」

うちに かえると カモが いけに もどっていました。
ポッセは さっそく カバンを ひろげて みせました。
「カモさんにも わけて あげるよ」
それから みんなの はなしは いつまでも つづきました。



この作品の著作権は作者に帰属します。
無断複製及び転載はできません。

<http://www.seiawonderland.net>